

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2072100502		
法人名	社会福祉法人 御代田町社会福祉協議会		
事業所名	グループホームみよた		
所在地	長野県北佐久郡御代田町大字御代田1833-1		
自己評価作成日	平成21年9月7日	評価結果市町村受理日	平成22年1月29日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://aaa.nsyakyo.or.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2072100502&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社マスネットワーク 医療福祉事業部
所在地	長野県松本市両島7-1 オフィス松本堂2A
訪問調査日	平成21年10月15日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホームは生活の場所なので、入居者と職員が対等な関係でいて、生活する上で不便になっていることに対して、一人ひとりに合った支援を心掛けている。
グループホームは共同生活であるが、その中で個の時間を過ごしたり、個別の関わりをすることにより、満足感や達成感が得られるような支援を心掛けている。
入居者にいろいろな感情(嬉しい、嫌な事など)を訴えられて、それをしっかり受け止めるよう心掛けている。
地域密着サービスとして、地域での事業所の役割、住民との相互理解をさらに深め、認知症や住民の社会福祉の理解と参加、協力をさらに進めていきたい。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

暮らしとは地域との相互関係のもとに成り立ち、地域社会と繋がりがながら、利用者が当たり前の生活を続けていくことが大切であり、「住み慣れた地域で、その人らしく、そして安心して暮らせるために」を理念とした事業所の思いが、地域住民の方々に浸透し、普段の暮らしの中で隣近所の人たちが立ち寄り、遊びに来たり、おすそ分けをしたりする間柄が作られていた。建物も地域の中に溶け込むように作られ、内装は木肌が見え、昔ながらの障子を取り入れたり、畳の居間やこたつを設けるなど懐かしく温かな雰囲気を醸し出していた。遊びに来て、居心地が良くて長居をしてしまう人もいるが、それを自然に受け入れている。事業所の懐の大きさが感じられた。入浴は利用者の希望に合わせて何時でも利用でき、終末期の対応指針に基づく介護が実施され、良好な職員間のコミュニケーションと利用者が安

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

ユニット名()				
項目		取り組みの成果 該当するものに 印	項目	取り組みの成果 該当する項目に 印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	日常的に理念の確認をしており(掲示も含む)理念の共有を実践につなげている。	「住み慣れた地域で、その人らしく、安心して暮らせるために」という事業所独自の理念を掲げ、日常的に確認しあいながら、共有化を図っている。職員に日々大切にしていることを聞くと、当たり前で理念のことを話してくれた。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	月日を重ねるごとに、地域のたくさんの方が訪れてくれたり、また地域の行事等の参加を通して、日常的に交流している。	自治会加入のため、回覧板が回り、総会などにも参加している。地区行事のサロンや一人暮らしの男性の会などへの参加、事業所行事の夏祭りやもちつきの招待など、双方向的な親しい付き合いをしている。地区の子供たちとの触れ合い、実習生の受け入れなど地域と共に暮らす生活が実現できていた。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の高齢者とのお茶会、及び一人暮らしの男性とのお茶会を行ったり、地域の方々との日々の交流の中で、認知症への理解や支援を、職員がどう接しているかを見ていただいて、支援の方法を自然に伝えている。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議については全職員に閲覧してもらい、必要なことはケース会議等で検討しているが、サービス向上には活かさきれていない。	年4回開催し、委員も地区社協会長、老人クラブ会長など充実した構成で、評価の件も議題となっており、双方向的な充実した会議となっている。運営推進会議は地域の理解や支援を得るよい機会であるので、防災協力や行政の現場理解をさらに求めてゆくことを望みます。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	町とのつながりは、運営推進会議、訪問調査、夏祭りぐらいなので、もっと行き来する機会を作り、サービスの質の向上に取り組んでいきたい。	運営推進会議への出席、介護認定の訪問調査、夏祭り参加などでの接触は出来ている。町の担当者に事業所での利用者の暮らしぶりなどをよく知ってもらい実情を共有することが望ましい。	町は地域福祉の推進役として最前線の立場にあり、現場の状況をしっかりと受け止め認知症ケアの実際を理解していることが大切であるので、事業所、行政、共にさらなる密な関係作りのための積極的な取り組みを期待します。

外部評価結果(グループホームみよた)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は行っていないが「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」について正しく理解していない職員もいる。	「拘束は行わない。」という基本姿勢があり、見守りを大切にし、職員同士で声を掛け合いながら所在を確認し、日中は玄関の施錠をしない対応をしている。地域の見守り体制などの協力を得ながら精神の荒廃を招いてしまう拘束を行わない取り組みをしている。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	新しい職員に対しては、早急に学んでもらい、また他の職員も再び学ぶ機会を設け、見過ごされないよう防止に努めている。		
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修等への参加及び書面にての資料により、理解している職員もいるが、新しい職員は理解していないこともあり、研修等への参加を行って、支援に活用できる知識を共有したい。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	書面及び口頭で行い理解、納得してもらっている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族との昼食会等の機会を設けており、意見要望は常時受けて、改善に取り組んでいる。外部者へは表しきれていないため、運営推進会議等の機会に表し、運営に反映させたい。	ご家族との昼食会や面会時などの機会に、ご家族の思いや意見を聞いたり、暮らし振りの報告をして、意見等を気軽に言える事業所となるよう取り組んでいる。苦情受付等のご家族への周知は入居時に行ない、理解を得ている。ご家族向けのたよりも発行し、ご家族からの安心を得ている。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	意見や提案は聞いてもらえる。相互関係が良かったため反映できている。	管理者と職員、職員間のコミュニケーションは良好であり、介護計画を始めとする各種情報の伝達がスムーズで、介護現場では職員同士が声を掛け合って所在確認をするなど、十分な連携が行われている。	

外部評価結果(グループホームみよた)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		<p>就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>経営状況などの関係により、給与水準等の整備は整っていないが、他はすべて把握しており、向上心を持って働ける環境になっている。</p>		
13		<p>職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>外部の研修に参加したり、社協内部の研修を行っている。 本人が行きたい研修を受けられる機会を設けている。</p>		
14		<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>広域による学習会等に参加したり、相互交流を行うなどして、広域全体のグループホームの質の向上を目指している。</p>		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>事前に管理者、職員が本人に会い、現在の状況や、グループホームに入居してから、どんな生活を送りたいか聞く機会を作り対応している。</p>		
16		<p>初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>ご家族がグループホームに対して望んでいることを理解して、不安なことが少しでも軽減できるように話し合いを行っている。</p>		
17		<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>本人、ご家族だけでなく担当のケアマネージャーや、今まで利用されていた事業所の方と話し合いを持ち、その人が必要なサービスを見極め支援している。</p>		

外部評価結果(グループホームみよた)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	IADLの中で、できる力をうばわず、その人の満足感、達成感が得られるような支援を行い、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族とは密に連絡を取り、本人を支えるよう努めている。入居が長くなり、遠方に住んでいるご家族とは、少しずつ距離が遠くなってしまっている。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている	馴染みの美容院に行ったり、町の行事等に参加し、関係が途切れないう努めている。	自宅や馴染みの場所への外出、家族の付き添いによる墓参り、懐かしい町の行事への参加、行き付けの美容院へとこれまでの関係が継続できるよう取り組んでいる。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個別に話を聞いたり相談にのり、入居者同士の関係がうまくいくように、職員が間に入り対応する事もある。		
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の事業所に移られた方がグループホームに遊びに来てくれたり、職員が他の事業所の職員から状況を聞いている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	その方の今までの生活歴を把握し、希望、意向に添うように努めている。	フェイスシートやご家族からの情報などにより、利用者の生活歴や価値観を把握して満足や達成感を得られるよう支援している。料理やことわざなどを教えてもらうなど、利用者が主役となれる場面作りにも取り組んでいる。	

外部評価結果(グループホームみよた)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	聞き取り、フェイスシート等の内容の共有ができており、これまでの暮らしの把握をしている。生活していくなかでも本人、ご家族等より情報を得ている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者一人ひとりの生活リズムを理解するとともに、行動を見守り、その人全体の把握に努めている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、ご家族と必要に応じて話し合いを行っており、現状に即した介護計画を作成している。	利用者やご家族の要望を聞き、アセスメントシートにより利用者の課題を把握して、介護計画を作成し、ケース会議により職員への共有化を図っている。毎月、ケース記録等で実施状況を把握し、設定期間ごとの見直しや、状況変化に応じての見直しが行われていた。面会時にご家族の確認を行っている。	介護計画の実施状況、達成度の把握、評価の記録の様式を記録者が記入しやすく、見やすいよう工夫されることを期待します。他の事業所等と比較しながら全職員で話し合い、事業所にとって使いやすい、事業所独自の様式を作り出すことを望みます。
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践、結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録等により、情報の共有を行い、個別ケアの実践や、介護計画の見直しに努めている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	常に本人やご家族の状況、その時々ニーズに対し、受診や食事の提供等早急に対応している。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	入居者が安心して地域での暮らしを続けられるよう区長、民生委員をはじめ、地域の方にグループホームへ訪れてもらえるような声掛けをしている。		

外部評価結果(グループホームみよた)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に主治医や緊急時の病院について話し合い、それに添って支援している。体調の変化により、主治医が変わることもあるため、その時々で話し合いを持っている。往診してくれる医院とは密な関わりを持ち、適切な対応を受けている。	利用者、ご家族の希望するかかりつけ医となっており、原則として付き添いはご家族が行うが、職員が代行することもある。緊急治療や入院は、かかりつけ医になっているが、協力医療機関による往診、インフルエンザの接種、さらに医療連携体制もあり、医療面での安心を得ている。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師を配置しており、常に入居者の健康管理や状態変化に応じた支援を行っている。また社協本体の看護師の支援も受けている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	治療が落ち着いた段階で、早期退院を実践している。入院中ご家族や病院と連絡を取っている。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化に向けて指針ができていて、ご家族に説明してある。またその時々で話し合いを行っており、方針を共有しチームで支援に取り組んでいる。	重度化や終末期の受け入れを行って、これまでに3名の対応をしている。対応についての全職員の共有化は出来ている。事業所の指針についてのご家族の理解は得ており、都度の話し合いも行われている。葬儀の対応などの多様な要望に対する支援についても検討してゆく姿勢である。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署の講習、実践を受けている。また対応マニュアルができています。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練等の回数が少なく、また火災に対する訓練は行っているが、地震、水害に対する訓練は行ってないため改善していきたい。地域の人に対しては、運営推進会議で協力を呼び掛けている。	社協全体の訓練に参加し、消火器の取り扱い、避難誘導方法について学んでいる。今年度は、今後2回の防災訓練を行う計画である。災害時の対応手順はマニュアル化され事務所に掲示し、落ち着いて対応出来る体制になっていた。	夜勤者1人になる夜間の対応が一番不安であるので、夜間想定訓練を年1回は実施することを期待します。短時間で何時でも実施できるイメージトレーニングを頻度よく実施し、全職員が対応出来るよう取り組むことを望みます。又、近隣住民との協力体制を築くことを望みます。

外部評価結果(グループホームみよた)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	長く生きてこられたことを常に頭に置き、人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉掛けや対応を心掛けている。	利用者の尊厳を大切にしたり、目立たず、さりげない言葉かけや対応に配慮している職員の姿勢が感じられた。個人情報の保護については、契約書等に明記するとともに書類は事務室に保管されていた。近隣住民が多く出入りすることについてはご家族の理解も得ている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	その方らしい生活を支援し、日々の希望を聞けるような関係作りに努め、自己決定できるような働きかけを行っている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大切に、それに合わせた対応を心掛けている。またしたいことがかなえられるよう支援している。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	TPOに合わせて本人の希望を聞きながら、その人らしくできるように支援している。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	自宅での調理方法や味付けを聞きながら行い、また一緒に準備、片付け、食事等を行っている。	調理の下準備、片付け、おやつ作りなどを職員と利用者が一緒になって行っている。畑で採れた物、おすそ分けで頂いた物を上手に活用し、職員の作った献立で、利用者の自宅での調理方法や味付けを聞きながら食事作りをしている。献立は年に数回は栄養士のチェックを受けることを望みます。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養のバランスは一週間のメニュー表を見て偏らないよう心掛けている。水分量、食事量は、必要に応じチェックし、記録している。		

外部評価結果(グループホームみよた)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	朝夕の口腔ケアはチェック表に記入している。昼食後行っていない人もいるが、お茶は飲んでもらっている。		
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	尿意便意のない人には排せつパターンを知り、トイレでの排せつを促している。また、一人ひとりに合った支援を行っている。	尿とりパットやリハビリパンツを活用しながら、一人ひとりの排泄パターンに応じた声掛けやトイレ誘導を実施している。トイレは車椅子でも利用できる広さがあり、介助バーも設置され、気持ちよく排泄できるよう工夫されていた。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分、食物繊維をとるよう心掛けて、自力排便が行えるように工夫している。その人に合った排便パターンで、下剤を服薬していただいている。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入居者の希望に沿った入浴を行っており、曜日、時間等は決まっていない。	入浴は何時でも利用できる体制となっており、朝食後、毎日入浴している利用者もいる。風呂嫌いな利用者もいるが、最低でも週1回は入浴できるよう支援し、さらに清拭や足浴も取り入れている。重度者には2人対応し、菖蒲、ゆず、リンゴ湯などの季節感のある入浴も行っている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動を促し、夜間安眠できるような生活を心掛けると共に、その時々状況に応じ、日中も休んでいただいている。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの薬について理解している。処方の変更された時も、職員全員に伝えている。		

外部評価結果(グループホームみよた)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	行えている方もいるが、役割の少ない方もいるので、得意分野で力を発揮してもらえような支援につなげたい。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	積極的に外出できるよう支援している。(散歩、買い物、ドライブ等)また、サロン等で地域の人たちと一緒に出かけたりしている。	事業所前の道路は交通量も少なく、日々の散歩には最適であり、日常的な外出が実施されている。スーパーへの買い物、ドライブ、各種のサロン等への参加外出、秋の旅行、花見、近所の食堂利用など、外に出かける機会を多く設けている。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者がお金(財布)を持ち、自ら管理し使用する事もあるが、グループホームでご家族よりお金を預かり、必要に応じて使用していただくこともある。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者からの希望があればいつでも電話をしたり、手紙を出すことができる。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花を飾ったり、一年を通しての行事を行うなどで、季節感を感じてもらい、その時々で配慮を行い、居心地良く過ごせるよう工夫している。	食堂は台所と一体となり、調理の音や匂いが感じられ、天窓からの採光もよく、障子戸の和室の居間があり、露出した梁など木造の温かさと優しさを感じられた。寄贈されたシンビジュウム、行事や外出時の写真なども飾られ、家庭的で居心地の良い生活空間になっていた。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間、リビング等その時々でその人らしく過ごせるような工夫をしている。また食堂、リビングは一体的ですべてが視界に入ってしまうため、廊下にイスを置き、一人で過ごせるスペースを作っている。		

外部評価結果(グループホームみよた)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が以前使用していた物を搬入してもらい、その人らしく生活できるような工夫をしている。またその時々状況に応じて、家族と連絡を取り合い、その人に必要なものを用意してもらい使用していただいている。	利用者ご家族で自由に部屋作りが出来るようになっていた。障子戸と畳の部屋であるが、ベッド利用の方もおり、和・洋と思い思いに使っていた。馴染んだ仏壇やタンスを配置した部屋、ベッド・タンス・テレビを持ってきた部屋、布団の上げ下ろしをしている部屋など利用者それぞれの部屋作りができていた。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物が新しく、一人ひとりの身体機能を生かした生活ができるように造られている。その人の残存機能に合わせた生活が送れるよう工夫している。		